

「金融機能と金融規制」授業概要

1. 内容

金融機能のあり方との関わりに重点を置きつつ、金融規制（主にプルーデンシャル規制と呼ばれる分野）にかかる事項を幅広く取り上げる。多くの「前提」に上に成り立つ理論や、特定の事象に着目した（時には「感情的」な）狭い議論に振り回されるのではなく、深度ある議論を行うための基礎を身につけることを目指す。（詳細シラバス参照）

2. 教材

教科書として、「金融機能と金融規制 - プルーデンシャル規制の誕生と変化」（天谷知子著、金融財政事情研究会）を利用するほか、参考資料を配布する。配布資料については、公共政策大学院 WEBSITE の「在校生用掲示板」で連絡する。

3. 授業予定・進め方

下記日程のうち、斜字体以外の日については、教科書の該当部分の内容を中心にとりあげ講義を行う。授業においては、教科書内容の自習を前提に、参考資料を併用しつつ、より深度ある議論や関連・発展事項について、ポイントを絞ってとりあげる。

斜字体で表示した3回については、特定のテーマについてのディスカッションを行う。（詳細4.）

（日程）

10月3日	オリエンテーション、第I部
10日	II部1章1節1項、2節1項
17日	1章2節2, 3, 4項
24日	1章2節5項、1節2項
31日	1章3節、III部2章1節
11月7日	1章4節、2章
14日	課題ディスカッション①
21日	II部3章、III部2章2節
28日	III部1章
12月5日	課題ディスカッション②
12日	III部1章（続）
19日	課題ディスカッション③
1月9日	III部3, 4章
16日	II部4章、その他金融規制を巡る事項
23日	試験

4. 課題ディスカッション

各回、予め設定した課題について、学生による簡単なプレゼンテーションの後、質疑応答・議論を行う。学生はいずれか一回の課題においてプレゼンテーションを行うものとするので、希望する課題を10月21日までに、天谷宛メールで提出すること。なお、希望に偏りが見られた場合には、先に提出した者を優先し調整する。

— 希望提出メールの記載様式 —

件名 【課題▲（希望する課題番号を記載）希望】〇〇〇〇（氏名を記載）
本文 「金融機能と金融規制」課題ディスカッションについて課題▲を希望します。
所属
学籍番号
氏名

— 各回の課題 —

課題① 「住宅ローン増にどう取り組むか」

近年個人向け住宅ローンに力をいれている日本の銀行が多く貸付残高も伸びを続けている。1%をきるような非常に低金利でのローンの広告を目にしたことのある人もいるだろう。なぜ、今住宅ローンに力を入れているのだろうか？採算は成り立っているのだろうか？将来に向けての留意点は？具体的業務にあてはめて考えてみることで、授業でとりあげる金融機関のリスクと経営、規制の関わり方についての理解を深める。

課題② 「regulatory forbearance, regulatory capture 発見」

regulatory forbearance, regulatory capture は金融規制特有の事象ではない。最近では、原発規制を巡って regulatory capture という言葉がしばしば聞かれるし、AIJ 事件を契機に注目されることとなった厚生年金基金問題については regulatory forbearance の要素が見られる。金融規制以外の分野で見られる regulatory forbearance, regulatory capture の例をとりあげ、規制政策に内在する困難性についての理解を深める。

課題③ 「あの時何ができたのか」

大きな問題が発生し露見したほころびを修正するだけでは、（全く同じとはいえないまでも）似たような問題が再び起きることを防ぐことはできない。大きな問題が発生する前にほころびに気づいて軌道修正できるための知恵を蓄積することが必要である。サブプライムローン問題を契機に世界的な金融危機が発生する前（～2006年）に立ちもどり、当時、金融機関や規制当局は、何に気づき何に留意することができたはずか、それを妨げていた要因は何か考える。

5. その他

オフィスアワーは特に設けないので、質問等のある学生は、メール（amaya@pp.u-tokyo.ac.jp）にてアポ（月曜午後、水曜は不可）を入れること。